

液晶テレビ・ディスプレイ向け導光板用ガラスXCV™の販売を開始 ～ガラス製導光板がテレビのデザインをスタイリッシュに変えていきます～

AGC 旭硝子株式会社

AGC(旭硝子株式会社、本社:東京、社長:島村琢哉)は、液晶テレビ・ディスプレイ向け導光板用に、内部透過率を向上させたガラス基板、XCV™(エクシーブ)の販売を開始しました。厚さわずか5mmのスタイリッシュなデザインのテレビを実現できる新製品として、グローバルに拡販を進めます。

XCV™は、現在主流となりつつあるエッジライト方式(注1)の液晶テレビで面光源として使用される導光板用ガラス基板です。

これまで導光板には、光の透過率が高い樹脂が使用されてきましたが、物理的な強度や、湿度や熱による膨張等の樹脂の問題点を、テレビの筐体を強化し、様々な付属品を用いることで解決してきました。一方テレビを薄型化したり額縁をできるだけ小さくし、スタイリッシュなデザインを実現していくには制約となっていました。

AGCは、ガラスを導光板に使用する上での大きな課題であった光の透過率を高める事に成功し、更に、最適な厚みで効率良く量産できる、フロート法での生産プロセスを確立致しました。

XCV™(エクシーブ)を用いたガラス製導光板は、十分な物理的強度があること、湿度や熱による膨張等が大変少ないことが特徴です。これによって、厚さわずか5mmで額縁が小さい、スタイリッシュなデザインのテレビを実現できるようになりました。



テレビが、単なる娯楽と情報収集の電気製品から、壁に掛けられた絵画や、風景を写す窓のような、スタイリッシュなインテリアの主役へと変わっていきます。AGCはXCV™の拡販を通じて、その普及に貢献して参ります。

◎本件に関するお問い合わせ先:

AGC 旭硝子(株)広報・IR室長 小林 純一

(担当:烏山 TEL: 03-3218-5603、E-mail: info-pr@agc.com)

 **JAPAN**
EXPO 2015 MILANO

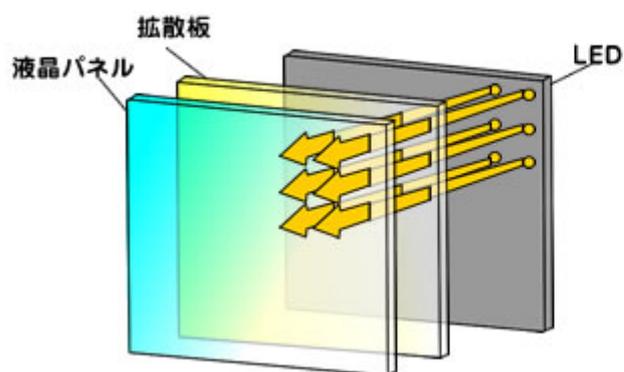
ミラノ万博日本館に協賛しています。

<ご参考>

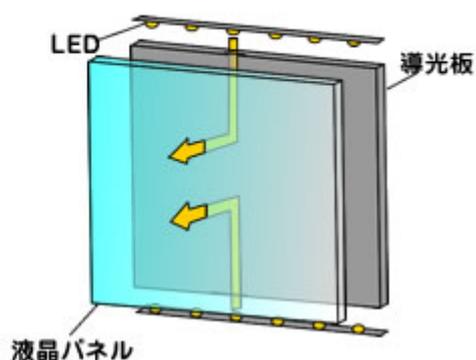
(注1) エッジライト

液晶表示装置(LCD)は自ら光を発する事ができないので、別途光源が必要となります。従来からテレビには直下型が用いられてきましたが、近年はより薄くスタイリッシュな、デザインの自由度の高い、エッジライト型へのニーズが高まっています。エッジライト型では、ディスプレイ全体を均一に照らす為に「導光板」が使用されます。

■直下型



■エッジライト型



出典:<http://www.phileweb.com/review/closeup/aquos-s/gasitu.html>

■ガラス製導光板の特徴 (樹脂との比較)

- | | |
|---------------|-------------|
| ● 剛性が高い | 約20倍以上 |
| ● 熱による膨張が少ない | 約1/8 |
| ● 湿度による膨張が少ない | 約1/100(推定値) |